

麻しん（はしか）とは

麻しんウイルスの感染経路は、空気感染、飛沫感染、接触感染で人から人へ感染し、その感染力は非常に強いといわれています。麻しん発症患者から周囲への感染可能期間は、発症日の1日前から解熱後3日間を経過するまでの期間で発症前から感染力があります。免疫を持っていない人が感染するとほぼ100%発症し、一度感染して発症すると一生免疫が持続するといわれています。

主な症状は、感染すると約10日後に発熱や咳、鼻水、目の充血といった風邪のような症状が現れます。2～3日熱が続いた後、**39℃以上の高熱と発疹**が出現します。

肺炎や中耳炎を合併しやすく、患者1,000人に1人程度の割合で脳炎を発症します。その他の合併症として10万人に1人と頻度は高くないものの、麻しんウイルスに感染後、数年から十数年後に亜急性硬化性全脳炎（SSPE）と呼ばれる知的障害や運動障害などが進行した後、数年以内に死に至る中枢神経疾患を発症することもあります。

風しんとは

風しんウイルスによる感染症で、妊娠早期（20週頃以前）の女性が感染することで、胎児に重篤な影響を与える先天性風しん症候群の原因となり、妊婦は特に注意が必要です。

主な症状は、発熱・発疹（全身の小さな赤い発疹）・リンパ節の腫れ（主に首、後頭部、耳の後ろ）が三主徴で、感染後2～3週間の潜伏期間を経て発症します。

発熱・発疹は数日で消失しますが、リンパ節の腫れは3～6週間続きます。成人では関節炎症状も認められることもありますが、基本的には自然に回復します。また、脳炎や血小板減少性紫斑病等の合併症を認めることもあり、入院加療を要することもあります。

一方で、感染しても発症しない場合もあります。小児では30～50%、大人では15%程度と言われており、発症しても三主徴の全てが揃わない場合も多くあります。

MRワクチンの安全性

ワクチン接種後の反応として多く見られる症状として、発熱、発疹、鼻汁、咳、注射部位紅斑、腫脹などが見られます。重大な副反応として、アナフィラキシー、急性散在性脳脊髄炎（ADEM）、脳炎・脳症、けいれん、血小板減少性紫斑病がごく稀に（0.1%未満）報告されていますが、ワクチンとの因果関係が明らかでない場合も含まれています。

なお、麻しん含有ワクチンは、ニワトリの胚細胞を用いて製造されており、卵そのものを使っていないため卵アレルギーによるアレルギー反応の心配はほとんどないとされています。

しかし、重度のアレルギー（アナフィラキシー反応の既往のある人など）のある方は、ワクチンに含まれるその他の成分によるアレルギー反応が生ずる可能性もあるので、接種時にかかりつけ医にご相談ください。

出席停止期間（学校保健安全法）

【麻しん】解熱後3日を経過するまで 【風しん】発疹が消失するまで